

籠林の不動滝と不動尊

あすこ紹介

安藤泰浩さん・隆裕さん・空陽さん

足助の名スポット紹介

Kaede Valley&Hill

読者のみなさんの“声”

籠林の不動滝と不動尊

籠林地区にある不動滝と不動尊。滝の背後の洞穴にお堂が建てられ、そこに不動明王が祀られていることから、不動滝と呼ばれています。江戸時代から籠林地区と隣の川端地区の人々によって祀られており、現在も毎年お祭りを行っているそうです。また、不動明王の他にもたくさんの石仏が祀られており、行者たちが滝に打たれて修行をする場所でもあったそうです。

水量は多くないですが、細く流れ落ちる滝がとてもきれいでした。(鈴木悠太)



Googleマップ



(左) 泰浩さん、(右) 隆裕さん



R4現在の校舎



前号(第42号)に引き続き、開校150周年を迎える小学校のうち、明治6年(1873年)に当時明川村に明月清風校の分校(現在の稲武小学校)が創立されて以来150年を迎える、明和小学校を特集します。今回は、3世代に渡って明和小学校を学び舎としてきた安藤泰浩さん(72歳・昭和38年卒業)、隆裕さん(45歳・平成2年卒業)、空陽さん(15歳、令和3年卒業)ご家族に小学校にまつわるお話をお聞きました。

■同級生の数を教えてください

泰浩さん 全校生徒は156人で、同級生は32人でした。ベビーブームの最後だったのでまだまだ人数は多かったです。授業は単式で行われていました。

隆裕さん 全校生徒が63人で、同級生は12人でした。授業は単式と複式が混ざっていて、1年ごとに単式と複式が繰り返されていました。今はもう完全に複式になっています。

空陽さん 全校生徒は多くて24人で、同級生は6人でした。



安藤さんご家族

■小学校ではどんなことをして遊びましたか。

泰浩さん 子どもの数も多かったので、スポーツをして遊んでいました。ソフトボールを中心に遊んでいて、放課後も真っ暗になるまでソフトボールをしていたのが思い出です。

隆裕さん 学校ではサッカーやソフトボールなど色々やりました。放課後には、ミニバスケットボールや陸上の練習をしていました。家に帰った後は、近くで自転車に乗って遊ぶか、ファミコンが始まった時代だったので、ゲームで遊んでいました。

泰浩さん みんな家が遠いから、一度帰ったら学校に行ったりして遊べないんです。

空陽さん スポーツをするだけの人数がいなかったの、学校ではずっと鬼ごっこをしていました。

■給食の思い出を聞かせてください。

泰浩さん 小学生の時は給食がまだなくて、お弁当を持って行っていました。冬は棚になった電熱器でお弁当を温めて食べていて、それ以前はだるまストーブでお弁当を温めて食べました。中学に入ってから給食が始まって、脱脂粉乳を飲んでいていた時代でした。

隆裕さん 給食センターで作られた給食を食べていて、



S39 新築校舎



S32 旧校舎



お米や麺など色々食べました。牛乳は瓶の牛乳で、たまに粉のコーヒー牛乳のもとを入れて、コーヒー牛乳にして飲んでいたので覚えています。

空陽さん ずっとパックの牛乳で、コーヒー牛乳は、チューブのコーヒー牛乳のもとでした。



H29 寧比曽岳山頂にて

■遠足の思い出を教えてください。

隆裕さん 旭高原にキャンプに行きました。寧比曽岳にも行ったなあ。昔は椿立や大見と合同学習をやっていて、大多賀の逆側から登りました。

泰浩さん 寧比曽岳は定番だなあ。自分たちの時は、高学年の時に大多賀の方から登りました。当時はバスもなかったので、現地まで歩いて行って富士見峠まで行って引き返していました。低学年の時は旧伊勢神トンネルに行きました。

隆裕さん 自分たちの時は、新伊勢神トンネルのところまでスクールバスで行って、そこから寧比曽岳に上がって行きました。



今も変わらない木造の階段

空陽さん 自分たちの時は、寧比曽岳には行きましたが、スタート地点が旧伊勢神トンネルでした。最初の予定が延期また延期で、登山は冬だったので、とても寒かったのが思い出です。

■明和小学校の特徴や150年という歴史に何を感じますか？

泰浩さん 先代や先々代を辿って行くと、安藤家で明和小学校からの卒業生が17人います。すごいことです。

隆裕さん なんだかんだで生徒数も残っていて、しぶとく生き残っているなと感じます。木造建築が残っているのもすごいことです。自分たちが使っていた階段やロッカーがそのまま引き継がれていることにも歴史を感じます。今後も存続してほしいですし、この長い歴史と付き合っていきたいです。

(小野詩織)

足助の 名スポット 紹介



カエデ バレーアンドヒル

今春、新盛町にキャンプ場Kaede Valley&Hillがグランドオープンした。名称は、足助が香嵐溪の楓で有名なことと、谷(Valley)と丘(Hill)があるキャンプ場の地形に由来する。

R153を飯田方面に進み、車で香嵐溪から約10分。看板を目印に左折すると300m程で到着するアクセスの良い立地。足助のスーパー、コンビニ、ドラッグストア、病院に10分で行ける便利な場所だ。

造園業を営む株式会社アスケ緑化が、事業拡張の取り組みで管理・運営を行っている。この地は代表取締役である鈴木進也さんの叔父の山。自社が持つフィールドづくりの技術とノウハウで、地形を活かしたキャンプ場を内製した。中央の管理棟の前には、子どもたちが走り回れる芝生スペースが広がる。そこから見上げるような急斜面に、テントサイトが階段状に配置されているのが特徴的だ。プライベートスペースを確保しつつ、眼下に見下ろす形で視界が開けており、緑豊かな景色が楽しめる。

23あるテントサイトは、林間サイトの他、コンセントが設置されたオートサイトとフリーサイトある。WiFiに対応しており、

直火がOKのサイトがあるのも特筆すべき点だ。管理棟にはシャワールーム、トイレ、共同炊事場があり、薪、炭、カップ麺、飲み物等を販売している。地元、猪鹿工房 山恵のジビエも扱っているそうだ。

CAMP事業部管理人の成瀬結衣さんは、キャンプに詳しい人材の新規募集で採用された若手社員。関東で働いていたが市内にUターンし、趣味のキャンプに関わる仕事をやりたいと考えていたそうだ。「サイトから見上げる空が綺麗でおススメポイントです。木漏れ日が楽しめ、夜は星空鑑賞もできます。今までに様々なキャンプ場に行きましたが、ここは景観も設備もおしゃれで、個室空間が保たれていて女性キャンパーにも安心感があると思います」と、このキャンプ場の良さを話してくれた。(高木伸泰)

住所：豊田市新盛町中洞26-1

電話：0565-50-2616

Instagram：

https://www.instagram.com/kaede_camp2022/



Instagram



あすけ通信とあすけ支所だより統合のお知らせ

2012年に第1号を発行開始してから10年以上に渡り、地域への愛着とふるさとへの思いを持ち続けて欲しいという思いから、あすけ通信の発行を行ってまいりました。発行号数も43号を数え、みなさまのご協力があったからこそここまで続けてくることができました。

一方で、同封しているあすけ支所だよりもリニューアルを加え、地域への愛着や地域とのつながりといったことをテーマに編集を行ってきております。そのような中で、今年度末をもって、あすけ通信をあすけ支所だよりと統合することとなりました。統合を前向きにとらえて、今年度末まで引続き発行を行ってまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

統合に関しまして、「このコーナーは続けてほしい!」等のご意見がございましたら、QRコードからアンケートにご記入をお願いします。



アンケート記入